

●「公共」の見取り図(→ p.4~5)



幸福

幸福とは、心が充足していると感じられること。「よりよい社会」は、どのような形の幸福を、どうやって人々に約束するのか、どこまで保障するのが、幸福の視点。(→p.25)



自由

自由とは、他者から制約されず、自らの意志に従っていること。自分の意志にのみ従って行動できるかどうか、自由の視点。(→p.27)



正義

正義とは、人々の自由な幸福追求が互いに衝突しあわないようにするためのルール。「よりよい社会」を求める際、社会に広く通用する「正しさ」が、正義の視点。(→p.29)



公正

公正とは、正義が実現している状態、「よりよい社会」をめざす際に参照されるべき基準。交渉に不参加の人はいないか、不利益を被る人がいないか、などを考える視点。(→p.31)

●特集 寛容と連帯(→ p.32~33)



寛容

寛容とは、自分とは異なる意見やふるまいを受け入れること、また他者の欠点やあやまちを厳しく責めないことを意味する。他者を認め、共生するための視点。(→p.47)



連帯

連帯とは、人と人とが相互の信頼で結びつき、意志や行動、責任を分かちあうこと。他者を思いやり、自己を省みながら相互に支えあう視点。(→p.49)

●「政治」の見取り図(→ p.62~63)



個人の尊重

個人の尊重は、一人ひとりを大切にするという考えで、その国の政治が民主的かどうか判断する際に働かせる視点。反対に、社会全体の利益を優先するのが全体主義。(→p.41)



民主主義

民主主義は、政治のあり方を国民が決めるしくみ。ものごとの決め方や手続きなどに、国民の意思を反映する視点。多数決でなく、少数者の意見も考え熟議する必要がある。(→p.43)



法の支配

法の支配は、国家権力の行使は法に拘束されなければならないとする考え方。徹底されているかどうかは、その国が民主的であるかどうかを判断する際の重要な視点。(→p.55)



権力分立

権力分立は、権力を分けて、相互に抑制しあいバランス(均衡)を保つしくみ。権力が集中せず、暴走しないような制度になっているかどうかという視点。(→p.67)

●「経済」の見取り図(→ p.92~93)



効率性

効率性は、費用をできる限り小さくし、利益をできる限り大きくする視点。合意の結果に改善の余地がなければ、それは効率性の視点を実現しているといえる。(→p.103)



公平性

公平性は、行いやあり方が、かたよりなく扱われているかどうかという視点。所得などの格差や、機会の不平等に対して公平性の視点が求められる。(→p.101)



希少性

希少性とは、多くの人たちが欲しいと思っているにもかかわらず数が少ないという性質のこと。限られた資源をどう選択するのか、それをどう使うか考える視点。(→p.96)



持続可能性

持続可能性とは、現在世代から将来世代へと社会が持続できるかどうかという視点。環境保全や資源活用、社会保障などのあり方を検討する際に重要となる。(→p.135)



トレードオフ

トレードオフは、Aを選ぶとき、Bをあきらめなければならない関係のこと。選択の際の視点。(→p.96)



機会費用

機会費用は、トレードオフで選択しなかったことによる損失のこと。選択の際の視点。(→p.96)



ルール

ルールは、持続可能な社会の実現のため、効率性と公平性のバランスのとれた決まりをつくる視点。(→p.141)



イノベーション

イノベーションは、新しい物事の創造や、革新的なアイデアで、社会に変化を起こすという視点。(→p.129)



分業

分業は、生産部門や職業を分割・専門化すること。自給自足と比較して経済を考える視点。(→p.95)



信用創造

信用創造は、銀行が預金と貸し出しを繰り返すことでお金が増えるしくみ。金融の視点。(→p.119)

●「国際」の見取り図(→ p.156~157)



国際化

国際化とは、国境の垣根をこえて、主権国家同士が相互に結びつくこと。国境で区切られたそれぞれの国のルールにあわせて、結びつきを強める視点。



グローバル化

グローバル化とは、国境の垣根が低くなり、地球規模で結びつくこと。ルールや規格、財・サービスを、国境を越えて地球規模で統一しようという視点。(→p.191)